

2009年8月20日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### 原油高を好感して米株市場は反発するも、他の市場はリスク回避姿勢

欧州市場では中国株の下落を嫌気して多くの国で株価は続落しました。一方、米国市場では朝方は中国株安を嫌気する売りに押されたものの、原油価格が+4.7%と大幅反発したのを好感し、エネルギー関連株中心に買われ、株式相場は続伸しました。米エネルギー省によると、原油在庫は先週1週間で約840万バレル減少しました。減少幅は1年3ヵ月ぶりの大きさです。主な要因は輸入の大幅な減少ですが、稼働率や需要も小幅ながら上昇しており、マーケットではポジティブに受け止められました。一方、株式以外の市場ではリスク回避の動きとなりました。債券市場では株価上昇にも関わらず、安全逃避先として買われ、米10年債利回りは3.45%と約5週ぶりの低水準となりました。為替市場では円が選好され、投資家の不安心理を表すVIX指数も上昇しました。商品市場でも原油は上昇しましたが、銅などの金属は中国の需要低迷が懸念されて下落しました。このように、マーケット全体に不安感が漂う中、続伸した米国株式市場も出来高は少なく、株価上昇に力強さは感じられませんでした。

### 中国株の動向に振らされながら、先物主導で高値引け

海外市場では円高が進み、日本の株式市場にとってはマイナス材料でしたが、米国株式相場が上昇したこととひとまず安心感が広がり、主力株中心に堅調でした。特に原油価格の上昇を好感して石油関連株が堅調でした。ただし、中国株市場が始まるまでは、値動きはほとんどなく、株価指数は小幅高の水準にとどまりました。中国株が反発して始まったのを受けて、為替市場は円安方向に振れ、輸出関連株中心に株価指数は上げ幅を拡大させました。日経225先物では10,400円近辺に厚い売り板が並んでいたため上値は抑えられたものの、日経平均株価の後場の上げ幅は100円を超えました。結局、日経平均株価は4日ぶりに10,300円台を回復して引けました。ただし、上昇を牽引したのは先物相場と、週初の株価下落局面で先物を大量に売り越した外資系証券経由の売り建分が、一部買い戻しに動いたとの見方もありました。現物株市場では、次世代道路交通システム関連など材料のある個別株物色が一部で見られましたが、昨日もてはやされた繊維株は相対的に軟調となるなど、株式市場全体の売買は盛り上がりには欠ける展開でした。上海総合指数は大幅反発し、昨日の下落分を1日で取り戻しました。

日米ともに、株式相場は比較的底堅い動きとなっています。外国人投資家は先週までに5週連続で日本株を買い越しました。先物と合わせると、買い越し金額は2兆円に達しています。しかし、足元の状況は材料難の中、動きにくく、出来高が膨らみません。中国株市場の変動に世界中が惑わされて神経質になっていることも、投資家の不安を映しているように感じます。世界的に景気底入れが確認されつつあることから相場が大きく崩れる可能性は少ないと思われませんが、このような不安定な状況下では、しばらく様子見姿勢が続くように思われます。

以上